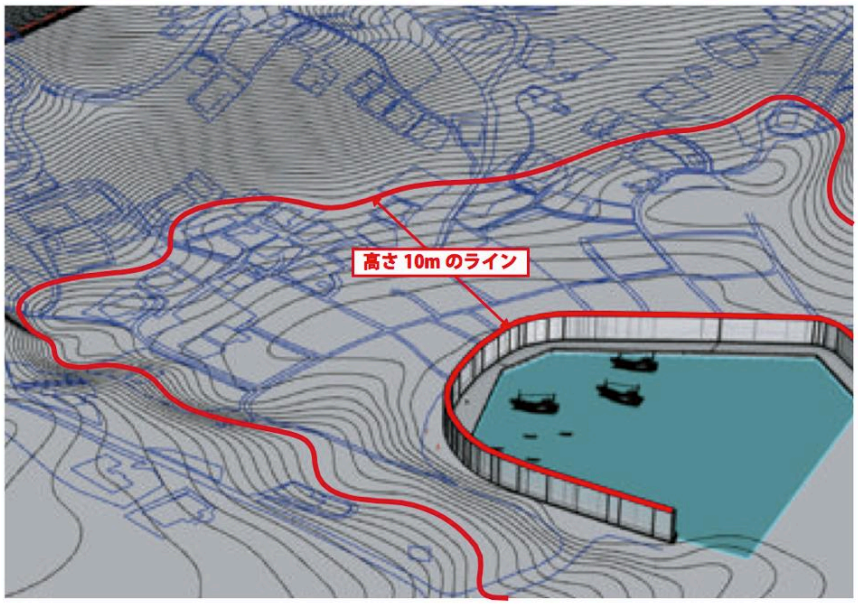
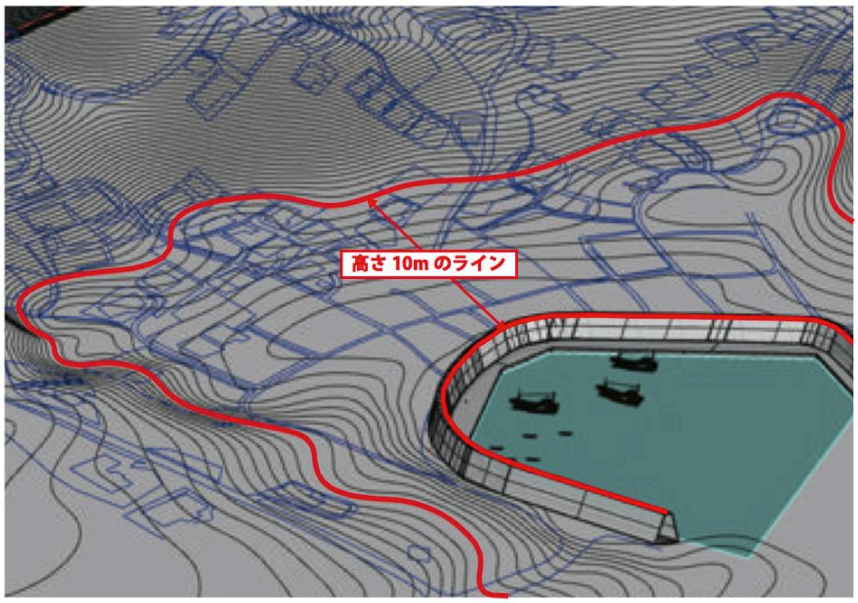
■「海岸保全施設」の配置

→計画は進行中の「漁港施設」＝護岸整備＆嵩上げとは別の事業です。
→「海岸保全施設」については鮪立の皆さんと話し合い、ある方が良いのかない方が良いのかを話し合います。
→予算は確保されていますが、**作ると決まった訳ではありません。**
→実現の有無だけでなく、高さ、位置についても検討はこれからです。例えば、湾口防波堤を作ることで波の勢いを弱め、海岸沿いの防潮堤の高さを低く見積もる方向性も考えられます。

■今後のまちづくりの方向性

→10m 防潮堤の高さというのは、地形図で赤く描いた等高線と同じ高さで、先日お持ちした模型の「L3」道路とほぼ同じ高さになります。L3 以下の土地利用をどう考えるのか、そこに防潮堤が守る住居・社会資本を作るのかで防潮堤の意味は変わります（赤いラインより下に人が住んでいなければ、防潮堤は守るものを持たないことになります）。
→**(集落内) 高台移転、避難道路の実現、湾沿いの土地利用をセットで考えることの重要性**はますます高くなったと思います。鮪立の皆さんにも是非ともこの３つを一緒に考えていただければ、と願っております。
→市も県も国も鮪立の皆さんも、災害に強く美しい街を実現するという点では目標は同じだと思います。ただ、長さ 500km に渡る沿岸被害地域それぞれの実情にあう、細やかな復興計画すべてを市、県、国が作ることはできません。待っていても反対しても何も進みませんので、**こういう鮪立が良い、という案を地元発信の形で提案し、市・県・国と協働しながら実現していくことが大事ですし、そのための体制づくりが必要**になると思います。鮪立の試みは、同じ状況に直面している集落に「これからの三陸はこうあるべきだ」と呼びかける、先駆者としての重要な試みになると思います。

■予算が確保されている防潮堤 (壁状断面)



■予算が確保されている防潮堤 (テーパー付の場合)